



キッズファム 通信

No. 10

2021年12月発行

発行：一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団（キッズファム財団）

Foundation for Severely Ill Children and Their Families



ご挨拶



相変わらず新型コロナウィルスにひっかき回された感でいっぱいの今年もいよいよ12月、皆様いかがお過ごしでしょうか。

皆様の知恵と力をお貸しいただけたおかげで、今年もなんとかスタッフ一同、さまざまな活動を続けてくることが出来ました。心より厚く御礼申し上げます。

隔月に行われて来たチャリティライブも、さまざまな演奏者のご協力を得ながら、この12月で第18回を迎えます。前回の10月6日の「新沢としひこさんと一緒に『にじ』を歌

おう」のライブにリモートで参加してくれた北海道滝川市丸加高原の「そらぶちキッズキャンプ」（難病の子が自然の中で過ごせるキャンプ場）からのお便りが届きました。

「元キャンパー（利用者）で、臨床心理士になり、今はここで働いている奈良出身のスタッフがいます。画面参加していた彼女が東大寺の療育病院の画面を見て、（小さい頃お世話になっていた保育士さんやー）。お互いに気づき、裏でLINEで連絡を取り合っていました。お世話になっていたのは20年以上も前のはなしだとか。嬉しい再会だったようです。」

あわただしくなります。御自愛ください。



英国だより(7)

秋も深まり今年も残り僅かとなって参りました、未だコロナ禍の続く中皆様ご健やかにお過ごしのことと存じます。

コロナ感染症の制限が緩やかな英国は、再び感染者が増え来て心配して居ります。ロンドンの朝晩の通勤時の混雑は以前と同様に混んできたそうですが、殆ど的人はマスク（義務ではない）をしていないそうです。老齢の小生は怖いので、未だに自宅に閉じこもって居ります。現在は英國南西部の大西洋岸のコーンウォール（Cornwall）に来て英國の秋を味わって居ります。

前号「キッズファム通信 No.9」英國だより（6）ではコロナ禍の事は再度触れない事を期待して居ましたが、不幸にも現実はそうは行きませんでした。英國では本年7月に制



コーンウォールにて

喜谷 喜夫



限を大幅に解除いたしており、外国旅行も条件付きで出来る様になり、経済も活気づきつつあります。コロナ対策としての英國のワクチン接種率は日本と同等に70%強を保持しています。ところがコロナの異端株の流行の為もありワクチン未接種の若年層の感染者が急増し毎日5万人にもなって参り問題視されております。

然しながらジョンソン首相は強気で、ワクチン接種率も高いため、死亡者数や、重症化することも少なくこのまま推移するのを見守る様です。

英國の経済は政府のコロナ対策緩和以降、徐々に回復しつつありますが、最近の世界的な原油価格の上昇は英國では別の問題が起こっています。英國では日本同様にガソリン価格の上昇が起こっていますがそれに上乗せてガソリンスタンドで販売するガソリン不足が問題になっています。実はこれは英國のEU離脱による影響と、政府の移民政策の盲点でした。ガソリン供給業者が雇っていたトラックの運転手不足の為なのです。EU体制下でヨーロッパ特に東欧から出稼ぎに来ていた運転手さんが BREXIT（英國のEU離脱）により英國政府の許可なしでは自由に働く事が出来なくなったりために英國を去ってしまったのです。しかもビザを取得してまでして英國にくる価値も以前ほど高くなくなった為なのだと思います。この事情は現在未だ解決策が見いだせず、これから先が心配されています。

「あの時、心に刻んだ大切なことば」

平井元喜（ピアニスト・作曲家）

故・喜谷昌代さんには、英國赤十字社のチャリティーコンサートを通じてお目にかかり、晩年の15、6年ほど親しくさせていただく幸運に恵まれました。近隣の村にお住まいでしたので、ご夫妻宅にも何度もおじゃまし、また、喜谷さんは尊敬する大学の大先輩でもありましたから、生き方、考え方、多くの大切なことを教わり、その都度、深く感銘を受け、励ましていただきました。

最後にお目にかかったのはお亡くなりになる前年で、イギリスの田園風景が秋色に染まりだす頃でした。凜とした優雅な佇まいと心の奥底から湧きでる気品はいつも通りでしたが、歩行器姿で出迎えていただいたのは初めてでした。パークリンソン病との闘いについて語られるとき、「ほら、こんな身体でしょう。日本へはもう行けるかどうか・・・」

きっと、日本で喜谷さんのことを待ちわびる重い病気をもつ子どもたちとそのご家族のことが頭から離れなかつたのだと思います。分け隔てのない「無私の愛」で皆を優しくつみこむ「信念と行動の人」でしたから、さぞ無念だったことでしょう。

アフタヌーンティーの終わりに、僕は自作の「Grace & Hope～祈り、そして希望～」を喜谷さんの愛器スタンウェイ製のピアノで演奏しました。

「元喜さん、ありがとう。辛い時、苦しい時こそ音楽よね。だから貴方はもっと頑張っていただきたい」

魂をゆさぶられる言葉でした。その後、僕自身コロナ感染を経験し、心臓を悪いながら少しづつ演奏活動を再開しつつある現在、あの時いたいた言葉の重みは増すばかりです。音楽家としての使命、音楽をできる歡びを強く感じますし、何より、生きる勇気が湧いてくるからです。

きっと多くの方がそうであるように、喜谷さんに今は今でも天国から励ましていただいている気がしていて、それこそ感謝しかないです。
(ロンドン郊外サリー州にて)



プラハ公演にて

■書籍「ひとすじの光—喜谷昌代の生涯」を出版して

昨年末に財団創設者、喜谷昌代の伝記本を文藝春秋から発刊いたしました。

お読みいただいた方々から本に関するメッセージを頂戴しましたので、ここに紹介させていただきます。



喜谷さんにひと目お会いしてみたかったな、と思いました。どんなに優しく素敵なおな方なのだろう、と想像を膨らませるばかりです。いつも他者のためを考え実行され、生涯を奉仕活動に捧げた喜谷さんの思いが形になつたもみじの家で、今こうして病気を抱える娘と日々楽ししく過ごせることに感謝の思いでいっぱいです。不安や閉塞感で覆われがちな時代のなかで、まさに、ひとすじの光と思えるお話を触れ、心が温かくなりました。

(もみじの家利用ご家族・M.A.様)

戦後の目まぐるしく変わりゆく世界で、困っている人々に寄り添い続け、「日本初の試み」を実現させた一人の女性を描いた本。先を見通せず不安になりがちな今日、忘れないかけた「無償の優しさ」「諒めない心」「やり続ける勇気」が湧き起こる一冊です。何かを諒めて辞めてしまう前に、ぜひ読んでほしいです！そして、この本がNHKの朝ドラ等にドラマ化されることにより、さらに多くの方に届くのではないかと期待しております。

(株式会社エーピール・水谷義和様)

一読致し、ナイチンゲールの精神を体現された故喜谷昌代様のご生涯と、その最後に日本にお残し頂いた「もみじの家」という素晴らしい子どもホスピスに改めて感銘を受けました。

(原田積善会・稻垣裕志様)



私には障害者の兄がいます。そのため、子どもホスピスやもみじの家のような施設がもっと広まってほしいと思いました。また、病気と闘う子ども達や支えるご家族にこの本を知ってもらえば、まさに「光」となるに違いないと思います。この本を読んでとても感動しました。

(砧南中3年・村山心珠さん)



喜谷昌代さんの生涯を知って、人のために行動することは素晴らしいと思いました。喜谷さんが「もみじの葉の五つの部分に込めた意味」の「一生涯、心にとどまる教育的機会と捉える」という言葉が心に残りました。

(砧南中3年・山本莉緒さん)



生い立ちからの全てが神様によって準備され、そこには試練や困難が待ち受けていたのに、喜谷様はそれらを見事に乗り越えられて、力を貸してくれる素晴らしい方に巡り合ってきた感じがします。重い病気の子どもたちに対して手を差し伸べようと思っても、簡単にそれ出来ません。やはり、子どものころから開かれて持てる場が必要だと思います。財団の活動が世に広まり、世の中が重い病気を持つ子どもたちを当たり前として受け入れる社会が出来たら素晴らしいと思います。

(医療機器関連団体・伊野公基様)

喜谷さん、本当に素晴らしい方でした。この本は、特に若い人にぜひ読んでもらいたいと思います。日本赤十字語学奉仕団の団員として、南半球の豪州の地で何かできることがないか考えてみます。貴財団の今後の益々のご発展をお祈りしております。

(オーストラリア在住・池田俊一様)

喜谷さんやもみじの家の関心から手に取りましたが、読み進むほどに、よくぞこの本を世に出してくれださったという思いが強くなりました。自分も含め、喜谷さんのように自らが世を照らす光にはなり得ない多くの人にとて、それでもせめて受けた光の何分の一かは照らし返す人でありたいと思わせる内容だと思います。ネット優位だからこそ若い方がこの本を手に取られ、自身が世を照らす存在へと羽ばたくきっかけになる、そんな物語を共に未来へと包んだ気分です。

(社会福祉法人・Y.F.様)

稀にみる「行動のひと」故・喜谷昌代さんの波瀬萬丈の人生とその偉業を讃えるオマージュであり、揺るぎない信念や考え方、人格形成の源流を垣間見ることができる座右にしたい本。何より、どんな人にも同じように温かい心で接することのできる喜谷さんの「愛」に満ち溢れていて、読みながら生きる勇気が湧いてきます。

(英国在住の音楽家・平井元喜様)

喜谷さん、やっぱり素晴らしい方ですね！簡単な伝記を作って、マンガや絵本とかで子どもや中学生とかにも知って欲しいくらいです。「もみじの家」を作ってくれて本当に感謝しています！

(もみじの家利用ご家族・A.O.様)

多くのメディアにこの本と喜谷昌代のことが掲載されました。



- 毎日新聞
- 読売新聞
- 東京新聞
- 産経新聞
- 毎日新聞デジタル版
- 山陽新聞
- 沖縄タイムス他